

報道関係者各位

株式会社 BCN
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14 本郷ダイヤビル 6F
TEL 03-4236-5200 FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記をお願いします。
BCN 田中繁廣
http://ranking.computernews.com/

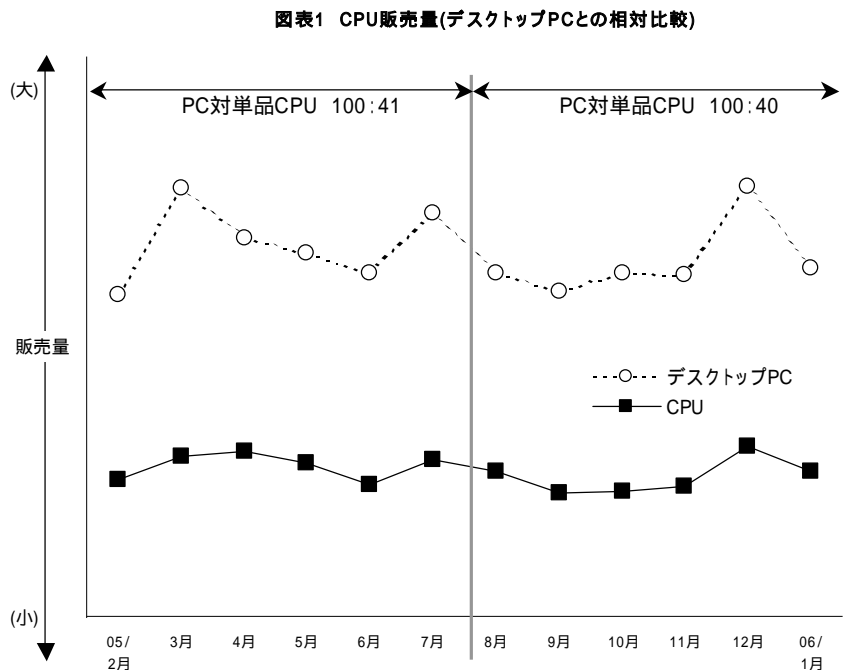
CPU 販売量、デスクトップ PC の 4 割に匹敵する規模に
1 月は Pentium-4 が約 3 割を占有、デュアルコアの Pentium D も 10%超す

株式会社 BCN(本社:東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男)は、BCN ランキングをもとに CPU の販売動向を集計した結果、ここ数ヵ月はデスクトップPCの約4割に匹敵する販売量に達しており、アイテム別ではPentium-4が約30%を占有、昨年春に販売を開始したデュアルコアのPentium Dが10%を超えて順調な伸びを示している。CPUの販売量がそのまま自作PC市場に該当するとは言い切れないが、自作市場がデスクトップPC市場の4割前後に相当する規模にあることを示している。

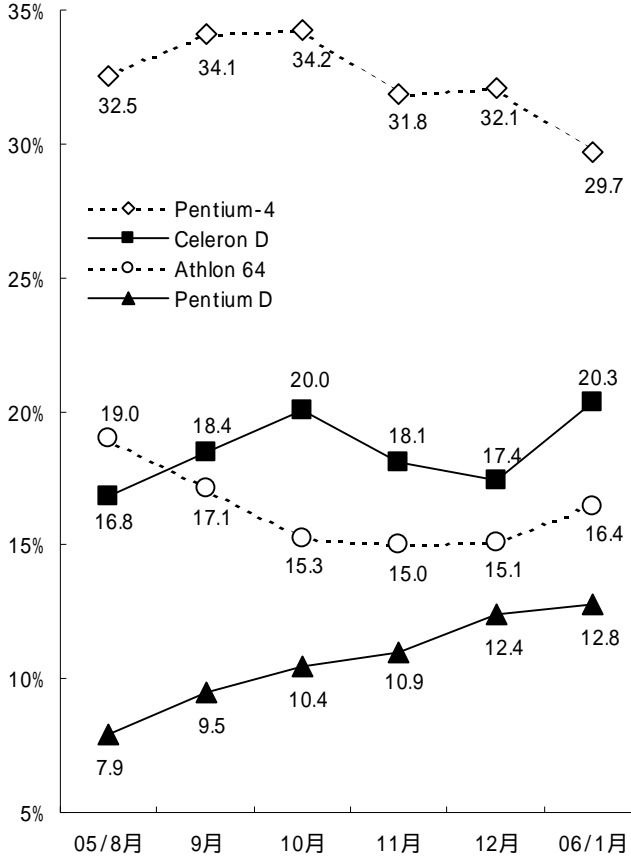
BCNは、全国のパソコン専門店、家電販売店18社(アロシステム、エイデン、大塚商会、ギガスケーズデンキ、グッドウィル、さくらや、上新電機、ソフマップ、ZOA、九十九電機、T-ZONE ストラテジィ、デオデオ、ニノミヤ、100満ボルト、ビックカメラ、ピーシーデポコーポレーション、ベスト電器、ラオックス=50音順)2,205店舗(2006年1月末現在)の日次配信データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています。

デスクトップ PC と単品 CPU の販売量を示したのが図表 1 で、半年ベースで見ると前期(05/8 月-06/1 月)はデスクトップ販売量を 100 とした場合の単品 CPU の販売指数が 40、前々期(05/2 月-7 月)は 41 であった。単品 CPU はデスクトップの約 4 割にあたる台数規模を持つこととなる。

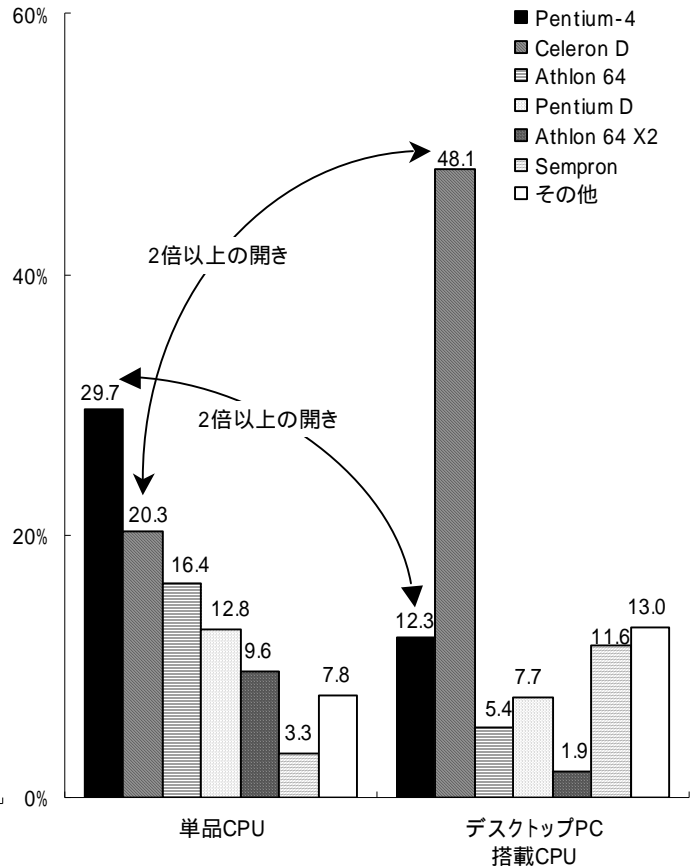
単品 CPU 購入者のすべてが PC の自作に直結すると捉えるのは早計だが、ショップ関係者の話を総合すると、自作目的がほぼ 100%を占めるとの見方で一致する。自作ユーザーは、CPU やマザーボードなどコアとなるパーツに関しては最新スペックを選択するのが一般的で、半完成品といえるベアキットに CPU を別途購入して自作するユーザーも少なくない。このため自作市場を推し測るうえでもっともポイントとなるのは CPU の販売量であることは確かで、少なくとも自作市場はデスクトップの約 4 割に匹敵する市場規模を有している、とみてい



図表2 単品CPU主力アイテム別の構成比



図表3 06/1月のCPU別比較



い。  
CPUのアイテム別の動向では、Pentium-4が、1月は30%を割ったとはいえ引き続き優位性を維持する。これに続くのは、廉価性のあるデスクトップ対応のCeleron D、64ビットのAthlon 64、デュアルコアのPentium Dが上位を占める。特に昨年春に販売が始まったPentium Dは月を追うごとに構成比率を高めており、1月は12.8%に達した(図表2)。

Pentium Dと同時期に販売が始まったIntel 945Gチップセット搭載のマザーボードの売れ行きも好調で、現在は945GマザーとPentium-4の組み合わせが主流となっている。ただ、CPU価格がこなれていくことでPentium-4からPentium Dへとシフトしていくのは確実で、CPUの世代交代のスピードは価格次第と見ていだろう。

06/1月における単品CPUとデスクトップPC搭載CPUをまとめたのが図表3で、格差は色濃く現れている。Pentium-4とCeleron Dの構成比率をみると違いは歴然で、デスクトップ搭載CPUでは前者の比率は低く、後者は圧倒的に高い。ともに2倍以上の開きを示している。スペックを重視する自作と、トータルコストを抑える傾向にあるデスクトップPCとの違いが、CPUからも読み取れる。

本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。  
お名前・会社名をメールにてお知らせ下さい。 お問い合わせ先: release@bcn.co.jp